

令和4年度防災分野のデータプラットフォーム整備にむけた調査検討業務
技術検討ワーキンググループ(第3回)
議事要旨

1. 日時

令和5年3月14日(火) 15:00~17:00

2. 出席者

大野委員、柴崎委員、武藤委員(50音順)

内閣府(防災担当)、デジタル庁、(国研)防災科学技術研究所

3. 議事次第

- (1) 関連事業の状況報告
- (2) 本事業の検討報告
- (3) その他

4. 議事要旨

内閣府・デジタル庁より、関連事業の検討状況について説明したのち、本事業の振り返りを実施の上、本事業の検討報告を行った。各委員からは以下の意見等があった。

【(2) 本事業の検討報告 について】

- GIFにもとづくデータモデルの社会実装にむけては、他システムとのデータ受け渡しにおける有用性などをより明確に示していくことが望ましい。
- データモデルを検討する際には、社会実装した際に生じる技術的な制約等も併せて整理検討するとよい。
- データモデルの社会実装にむけては、各主体における具体的な活用方法も併せて検討整理するとよい。
- 災害発生時等の非常時におけるデータ流通に関する運用ルールの検討・整備は非常に有用である。
- データ提供者に対して、利用者におけるコンプライアンスの保証や、提供データの利用目的や利用状況等の適切なフィードバックが実行されることが、データマネジメントの観点から重要である。
- 負荷分散の機能を検討する際、防災分野以外の負荷分散機能に関する検討状況や実装事例を調査し、必要に応じて技術的知見を参考とするとよい。
- データ連携におけるルールを実装するにあたり、規約として文章化したもの

はルールを守る側が内面化できない場合に機能発揮しないため、可能なルールについてはシステムアーキテクチャとして埋め込むことが有効と考えられる。

- 情報共有グループによって使用されるツールが異なる場合があるため、グループ間のデータ連携におけるルールは、より丁寧に整理することが望ましい。
- システム・機能の設計前に、まずその目的や提供価値を明確に設定することが望ましい。機能要求を検討するようなユースケースのみならず、ステークホルダ間で期待されるデータ連携基盤の価値を分析・整理する手法も有用と考えられる。
- 実際の機能設計は、各情報共有グループのステークホルダによって、より詳細なオペレーションを踏まえて、具体的な検討が望まれる。
- 想定されるリスクから網羅的に運用ルールの検討を行う場合、リスク抽出の観点を明確に整理するとよい。